

授業計画

科目名	英語				担当	ロバート シヴィキング	
実務経験						授業形態	演習
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
	15				○ 教養 ・ 必修 ・ 選択必修 ・ 幼免		
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          保育にかかわる現場に於いて、必要とされる英語力、教養を身につける</p> <p><b>【授業全体の内容と概要】</b>          保育士として責任ある指導ができるように英語を中心にした教養、指導能力を身につけることを学ぶ</p> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎英会話能力を習得する</li> <li>・保育の現場に必要な基礎語彙力と正しい発音を身につける</li> <li>・保育の現場で活用できる簡単な英語の歌やアクティビティを習得する</li> </ul>							
<b>授業計画</b>							
第1回	基礎会話ウォーミングアップ演習 日常会話で用いる簡単なフレーズ紹介						
第2回	基本フレーズの練習。英語を話すためのウォーミングアップ						
第3回	グループやペアで会話実践(自己紹介メイン)・ミニプレゼンテーション(グループ内)						
第4回	授業に基本的なフレーズを取り入れて自然な会話に慣れる						
第5回	発音教科演習・発音する際の口の動きを理解する						
第6回	様々な発音を練習し違いを理解する・ミニプレゼンテーション						
第7回	いろいろな場面を通して発音の使い分けを習得する						
第8回	基礎会話で使用したフレーズを発音を意識しながら練習する						
第9回	グループやペアで会話実践・ミニプレゼンテーション(グループ内)						
第10回	保育の現場で必要とされる語彙や基礎会話の演習						
第11回	保育の現場で必要とされる語彙やフレーズを場面ごとに紹介						
第12回	保育園の季節行事等を想定した演習・ミニプレゼンテーション(グループ内)						
第13回	保育の現場で活用できる英語の歌や活動の演習						
第14回	今までの演習要素を取り入れて保育園での会話から活動までの流れをグループ又はクラス全体を対象に実践する						
第15回	試験						
	出版社名		書籍名				
テキスト	(株)三修社		アメリカをかえた20人				
参考文献							
単位認定方法	授業態度・出席状況・プレゼンテーション・定期試験						

## 授業計画

科目名	体育基礎				担当	石田和也	
実務経験					授業形態	講義	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
	15				教養・必修・選択必修・幼免		
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 1.健康であるということがどういうことか。生活習慣と健康について学ぶ。 2. 運動やスポーツの合理的、計画的な実践や生涯にわたる豊かなスポーツライフを送る上で必要となるスポーツに関する科学的な知識を学ぶ。							
<b>【授業全体の内容と概要】</b> 1. 健康であるということがどういうことか。生活習慣と健康、スポーツについて学ぶ。 2. 心の健康とは何か、ライフサイクルを通して心の健康やストレスについて学ぶ。 3. 体力とは何か、大学生の体力、体力の想定と評価方法について学ぶ 4. スポーツの指導法と安全及びスポーツの運営管理について学ぶ。							
<b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b> 1. 健康の大切さを知り、体力向上、健康維持のためにスポーツの果たす役割を理解させる。 2. 健康で、生涯にわたって豊かなスポーツライフを送ることができるための知識と教養を身につける。 3. スポーツの歴史・文化的特性と現代の特徴について理解を深め、幅広い知識を身につける。 4. 各スポーツ種目を理解するとともに、大会の運営や企画の一助に資する。							
<b>授業計画</b>							
第1回	・健康であるということがどういうことか。生活習慣と健康について学ぶ。						
第2回	・心の健康とは何か、ライフサイクルを通して心の健康やストレスについて学ぶ。						
第3回	・体力とは何か、大学生の体力、体力の想定と評価方法について学ぶ						
第4回	・身体の発育・発達について学ぶ。						
第5回	・運動の意味、実際、スポーツ傷害、救急法について学ぶ。						
第6回	・スポーツの意味、役割、変遷、マナーについて学ぶ。						
第7回	・「する」スポーツ、「みる」スポーツ、「支える」スポーツについて学ぶ。						
第8回	・健康、運動、スポーツについて総合的に学ぶ。						
第9回	・現代の健康問題について統計、発生要因、疾病予防について学ぶ。						
第10回	・人の心身と健康について身体と健康面について学ぶ。						
第11回	・人の心身と健康について心と健康面について学ぶ。						
第12回	・スポーツの歴史と技術、戦術、ルールの変遷、及び用具、メディアの発展等について学ぶ。						
第13回	・スポーツの国際親善や世界平和、オリンピックの意義等について学ぶ。						
第14回	・大会等を安全かつ公平に実施するための、大会の目的に応じたルールや審判の仕方について学ぶ。						
第15回	・大会等を安全かつ効果的に運営するためのスポーツ組織やボランティアの必要性について学ぶ						
テキスト	道と書院	大学生の健康・スポーツ科学					
参考文献	(財)日本体育協会	公認スポーツ指導者養成テキスト					
	大修館書店	高等学校保健体育					
単位認定方法	授業態度・出席状況・提出物						

## 授業計画

科目名	情報				担当	秋田 由里子	
実務経験						授業形態	演習
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
	15				教養・必修・選択必修・幼免		
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 保育士に求められる事務処理において、パソコンを活用できるよう、パソコン全般の基礎知識、技能を習得する。							
<b>【授業全体の内容と概要】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワープロソフトによる文書作成、表計算ソフトによるデータ処理や表・グラフの作成、プレゼンテーションソフトによる発表資料の作成演習を行う。</li> <li>関連する知識を実際に操作して確認し、演習することによって、状況に応じた操作を行えるようにする。</li> </ul>							
<b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>インターネット上で必要な情報を収集することができる。</li> <li>ワープロソフトで効率的に文書を作成することができる。</li> <li>表計算ソフトで、データの分析ができる。</li> <li>プレゼンテーションソフトで、発表資料を作成できる。</li> </ol>							
<b>授業計画</b>							
第1回	Windowsの基本操作、実習準備						
第2回	文字入力、簡単な文書の作成						
第3回	インターネット						
第4回	インターネット、電子メール						
第5回	ワープロソフトの基本操作						
第6回	ワープロソフトの応用						
第7回	ワープロソフトの応用						
第8回	ワープロソフトの応用						
第9回	表計算ソフトの基本操作						
第10回	表計算ソフトの応用						
第11回	表計算ソフトの応用						
第12回	プレゼンテーションソフトの基本操作						
第13回	プレゼンテーションソフトの応用						
第14回	総合演習						
第15回	試験						
	出版社名	書籍名					
テキスト	実教出版	30時間でマスターoffice2016(Windows10対応)					
参考文献							
単位認定方法	授業態度・出席状況・提出物・定期試験						

授業計画

科目名	国語(文章表現)				担当	山岡 雄一郎	
実務経験						授業形態	演習
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
	15				(教養)・必修・選択必修・幼免		
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          保育の現場で働く社会人として必要な国語力を習得する。</p> <p><b>【授業全体の内容と概要】</b>          (1)用字(2)用語(3)表現技術の各分野について練習問題にそって基礎事項を確認。          文章作成の演習ならびに実践。さらに詩・童謡・俳句・短歌等の創作、鑑賞を通して豊かな感性を育成する。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b>          自分の考えを整理してその内容を的確に伝えるための表現力を習得する。          また詩・童謡・俳句・短歌等の創作、鑑賞を通して豊かな感性を育成する。</p>							
<b>授業計画</b>							
第1回	ガイダンス・自己紹介文の作成						
第2回	レポートの書き方						
第3回	ミニレポート作成						
第4回	レポート振り返り						
第5回	文章表現 平仮名、カタカナ、差別語						
第6回	俳句の創作						
第7回	童謡の創作						
第8回	レポート作成①						
第9回	レポート作成②						
第10回	レポート作成③						
第11回	レポート個別指導、清書						
第12回	小論文演習①						
第13回	小論文演習②						
第14回	小論文講評						
第15回	まとめ・テスト						
	出版社名			書籍名			
テキスト	萌文書林			保育者になるための国語表現			
参考文献	有斐閣新書			論文・レポートの文章作法			
単位認定方法	授業態度・出席状況・提出物・試験						

## 授業計画

科目名	就職支援				担当	佐々木明美	
実務経験						授業形態	演習
単位数	4				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
	7	8	7	8	教養・必修・選択必修・幼免		
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 進路を意識し履修意欲を高め、社会人としての知識技能を身につけるとともに、これからどう生きていくのかを考える。							
<b>【授業全体の内容と概要】</b> 就職を念頭に置き、コミュニケーション演習・就職対策指導を2年間通じて継続的に学習する。 各回の内容を習得しながら身につけていき、社会人としての高い人間性を目指す。							
<b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b> 「保育士として」「社会人として」のルールを学びながら進路意識、目的意識を明確にする。							
<b>授業計画</b>							
第1回	就職支援学習について				第16回	就職の流れについて	
第2回	就職先と保育所実習について				第17回	自己分析	
第3回	保育所実習先について				第18回	ジョブカードの作成	
第4回	実習依頼の方法・園(所)訪問の方法				第19回	ジョブカードの修正	
第5回	自分の目指す保育士について				第20回	目指す保育者像について	
第6回	ジョブカード作成				第21回	ボランティア活動と就職計画	
第7回	就職活動の流れ				第22回	自己PRについて	
第8回	求人の動向や就職試験の傾向				第23回	実際の仕事について	
第9回	履歴書の書き方				第24回	過去問題に挑戦(小論文)	
第10回	実際の仕事について				第25回	過去問題に挑戦(専門試験)	
第11回	就職につながる実習のありがた(保育所)				第26回	履歴書作成について	
第12回	保育所に関する調べ学習				第27回	模擬個別面談	
第13回	グループ発表				第28回	模擬グループ面談	
第14回	自己理解と自己PRについて				第29回	模擬面談	
第15回	就職につながる実習のありがた(施設)				第30回	まとめ 進路希望調査	
テキスト	なし						
参考文献							
単位認定方法	出席日数・提出物等						

授業計画

科目名	保育原理				担当	久保田智子	
実務経験						授業形態	講義
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
	15				教養・ <b>必修</b> ・選択必修・幼免		
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>            保育に関する基本的知識、乳幼児期の発達特性、保育現場における保育のあり方を学ぶことを通して、保育を総合的に捉える視点をもつ。</p> <p><b>【授業全体の内容と概要】</b>            保育の意義、目的、制度、歴史、現状とその課題、基本原理等、基本的知識について学ぶ。また、人間形成の基礎となる乳幼児期の重要性や現代社会における保育の課題について理解することにより、保育に対する課題意識を深める。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の意義・目的について理解する。</li> <li>・保育の歴史・思想及び、法律や制度等の基本的知識を身につける。</li> <li>・子どもの発達に応じた保育のあり方について理解する。</li> </ul>							
<b>授業計画</b>							
第1回	保育とは何か						
第2回	保育の歴史①諸外国						
第3回	保育の歴史②日本						
第4回	子ども子育て支援新制度と保育の場						
第5回	現行保育制度の概要と変遷①						
第6回	現行保育制度の概要と変遷②						
第7回	保育環境について						
第8回	保育内容について						
第9回	保育方法について						
第10回	保育形態について						
第11回	保育計画について						
第12回	保育の専門性について						
第13回	現代社会における保育の課題①多様な保育ニーズ						
第14回	現代社会における保育の課題②子どもを取り巻く環境と子育て支援						
第15回	試験						
	出版社名		書籍名				
テキスト	大学図書出版		新版 新しい保育原理				
参考文献							
単位認定方法	授業態度・出席状況・試験・提出物等						

授業計画

科目名	子ども家庭福祉				担当	持田 陽子	
実務経験						授業形態	講義
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
	15				教養・ <b>必修</b> ・選択必修・幼免		
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する          子どもの人権擁護について理解する          子ども家庭福祉の制度や実施体系について理解する          子ども家庭福祉の現状と課題について理解する          子ども家庭福祉の動向と展望について理解する</p> <p><b>【授業全体の内容と概要】</b>          子どもやその家族に対する専門職として必要な技術や知識を学ぶ</p> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b>          子どもやその家族に対する専門職として必要な技術や知識を習得する</p>							
<b>授業計画</b>							
第1回	子ども家庭福祉の理念と概念						
第2回	子ども家庭福祉の歴史の変遷						
第3回	子ども家庭福祉の制度と実施体制						
第4回	子どもの人権擁護						
第5回	子ども家庭福祉の施設と専門職						
第6回	社会的養護						
第7回	障害のある子どもへの対応						
第8回	少年非行等への対応						
第9回	貧困家庭、外国籍への子どもへの対応						
第10回	子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止						
第11回	少子化と地域子育て支援						
第12回	母子保健と子どもの健全育成						
第13回	次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進						
第14回	まとめ						
第15回	試験						
	出版社名			書籍名			
テキスト	中央法規			社会福祉士養成講座15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度			
参考文献				適宜授業にて資料配布			
単位認定方法	授業態度・出席状況・提出物・定期試験						

授業計画

科目名	社会福祉				担当	持田 陽子	
実務経験						授業形態	講義
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
	15				教養・ <b>必修</b> ・選択必修・幼免		
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解する          社会福祉の制度や実施体系について理解する          社会福祉における相談援助について理解する          社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する          社会福祉の動向と課題について理解する</p> <p><b>【授業全体の内容と概要】</b>          多様な社会福祉の領域や対象を知ることによって社会福祉とは何かを学ぶ</p> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b>          多様な社会福祉に関連する諸問題や制度を理解し実践に役立つ力を習得する</p>							
<b>授業計画</b>							
第1回	社会福祉の理念と歴史の変遷						
第2回	子ども家庭福祉と社会福祉						
第3回	社会福祉の制度と法体系						
第4回	社会保障及び関連制度の概要						
第5回	社会福祉における利用者を保護する仕組み						
第6回	社会福祉の専門職						
第7回	相談援助の理論						
第8回	相談援助の意義と機能						
第9回	相談援助の対象と過程						
第10回	相談援助の方法と技術						
第11回	共生社会の実現と障害者施策						
第12回	在宅福祉及び地域福祉の推進						
第13回	諸外国の社会福祉の動向						
第14回	まとめ						
第15回	試験						
	出版社名			書籍名			
テキスト	中央法規			新・社会福祉士養成講座4 現代社会と福祉			
参考文献	適宜授業にて資料配布						
単位認定方法	授業態度・出席状況・提出物・定期試験						



授業計画

科目名	子どもの保健				担当	舟木 賢治	
実務経験						授業形態	講義
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
	15				教養・ <b>必修</b> ・選択必修・幼免		
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          成長、発達を続けている子どもの健康の意味を理解するとともに、子どもの健康、発育について総合的な知識を習得し、さらに、健全な育成を目的とした指導計画や環境構成など現場での活用を習得する。</p> <p><b>【授業全体の内容と概要】</b>          子どもの心身の健康と保健の意義、子どもの発育・発達と健康状態の把握の仕方、子どもの疾病とその予防法と適切な対応について解説する。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。</li> <li>2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。</li> <li>3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。</li> <li>4. 子どもの疾病とその予防法および他種職間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。</li> </ol>							
<b>授業計画</b>							
第1回	子どもの心身の健康と保健の意義	(1) 生命保持と情緒の安定にかかる保健活動の意義と目的					
第2回		(2) 健康の概念と健康指標					
第3回	子どもの健康に関する現状と課題	(1) 子どもの健康と母子保健における現状					
第4回		(2) 地域における保健活動と児童虐待防止					
第5回	子どもの身体的発育・発達と保健	(3) 地域における保健活動と児童虐待防止					
第6回		(4) 地域における保健活動と児童虐待防止					
第7回	子どもの心身の健康状態とその把握	(5) 地域における保健活動と児童虐待防止					
第8回		(6) 地域における保健活動と児童虐待防止					
第9回		(7) 地域における保健活動と児童虐待防止					
第10回	子どもの疾病とその予防および対応ー主な疾病の特徴	(1) 先天性疾患と新生児の疾患					
第11回		(2) 循環器、呼吸器、消化器、泌尿器、 内分泌、中枢神経、その他の疾患					
第12回		(3) 血液、免疫、アレルギーの疾患					
第13回		(4) 感染症					
第14回		(5) 疾病の予防と適切な対応					
第15回	試験						
	出版社名	書籍名					
テキスト	同文書院	子どもの保健 I ー理論と実際ー					
参考文献	フレーベル館	「保育所保育指針解説(平成30年3月)」厚生労働省					
単位認定方法	授業態度・出席状況・提出物・小テスト・定期試験						

授業計画

科目名	保育内容(健康)				担当	舟木 賢治	
実務経験						授業形態	講義
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
	15				教養・ <b>必修</b> ・選択必修・幼免		
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          保育の全体構造における健康に関して総合的に指導、助言が行えるよう理論や知識を習得する。</p> <p><b>【授業全体の内容と概要】</b>          保育における健康な生活、健康への関心、健康維持増進、安全な生活について理解する。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育における領域「健康」の意義について理解する。</li> <li>2. 乳幼児の「健やかな心と身体」を支えているものを理解する。</li> <li>3. 領域「健康」と保育方法、保育の実際について理解する。</li> <li>4. 領域「健康」の指導上の留意事項、変遷について理解する。</li> </ol>							
<b>授業計画</b>							
第1回	子どもの健康とは			(1) 保育における「健康」および領域「健康」とは			
第2回				(2) 保育所での領域「健康」のとらえ方			
第3回	からだと心の発育・発達			(1) 幼児期のからだの発育・発達の特徴			
第4回				(2) 脳の構造と働き			
第5回				(3) 幼児期における心の育ち			
第6回	遊びと子どもの育ち			(1) 遊びの意義と遊びによって育まれるもの			
第7回				(2) 運動遊びの重要性と運動遊びの実際			
第8回				(3) 子どもの遊びの現状と課題			
第9回	健康な生活リズムの形成			(1) 基本的生活習慣の内容とその形成の意義			
第10回				(2) 基本的生活習慣の形成の実際			
第11回				(3) 生活リズムと生体リズム			
第12回	食と健康: 食育の重要性と食の安全管理						
第13回	病気予防・衛生管理						
第14回	園における安全教育と防災・危機管理						
第15回	試験						
	出版社名			書籍名			
テキスト	大学図書出版			乳幼児の健康			
参考文献	フレーベル館			「保育所保育指針解説(平成30年3月)」厚生労働省			
単位認定方法	授業態度・出席状況・提出物・定期試験						

# 授業計画

科目名	保育内容(環境)				担当	岡崎由美子								
実務経験	幼児教育に携わった経験を活かし、実践事例を交えながら演習を行う					授業形態	演習							
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス							
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科							
		15			教養・ <b>必修</b> ・選択必修・幼免									
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          保育における環境の意味、重要性を理解するとともに、物や人、自然や社会現象、時間や空間、それらが醸し出す雰囲気など、様々な要素が含まれていることへの理解をし、好奇心や探求心をもってかかわり、実践力を養う。</p> <p><b>【授業全体の内容と概要】</b>          身近な地域社会、環境・自然界に目を向け、いろいろな体験をする中で環境を理解し学ぶ。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b>          身近な環境に主体的にかかわり、保育における環境の意味、重要性に気づき理解する。</p>														
<b>授業計画</b>														
第1回	オリエンテーション 「環境ってなあに」「環境構成ってなあに」													
第2回	<div style="border-left: 1px dashed blue; border-right: 1px dashed blue; padding: 0 10px;"> <p>子どもと環境との関わり                      子どもの発達と環境</p> <p>保育と環境</p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>※ 時・空・場・等、敵機 期              季を踏まえて環境構成を考              える。</p> <p>・エプロンシアター</p> <p>・凧、こま、飛行機等</p> </div> <p>生活と関係する行事・文化</p> <p>子どもを取り巻く情報機器</p> <p>幼児教育の現代的課題と領域「環境」</p> </div>													
第3回														
第4回														
第5回														
第6回														
第7回														
第8回														
第9回														
第10回														
第12回														
第13回														
第14回														
第15回								試 験						
								出版社名		書 籍 名				
テキスト	一藝社		「新・保育内容シリーズ3 環境」一藝社、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」											
参考文献	ミネルヴァ書房		森上史朗「幼児教育への招待」											
単位認定方法	授業出席状況、提出物、試験													

## 授業計画

科目名	保育内容(言葉)				担当	佐々木明美	
実務経験	幼児教育に携わった経験を活かし、実践事例を交えながら演習を行う					授業形態	演習
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
	15				教養・ <b>必修</b> ・選択必修・幼免		
<b>【授業の目的・ねらい】</b>							
乳幼児の言葉の発達過程や特徴を学ぶ。「言葉」のねらいと内容を理解し、子どもにとって適切な環境提供ができる保育者を目指し、子どもの理解を深める。							
<b>【授業全体の内容と概要】</b>							
・子どもがどのようにことばを獲得していくのか、その過程を実践事例から読み取り、子どもの言葉を育む保育者としての力を養う。							
・援助の背景にある言葉の理論や、保育者の援助の考え方について、議論し考えていく。							
<b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b>							
領域「言葉」の持つ意義と役割を習得する。							
乳幼児が言葉を身に着けていく過程とそれにかかわる保育者の役割を習得する。							
発達に応じたかかわり方について習得する。							
乳幼児期の子どもにとって、発達段階にあった適切な教材を作成したり選んだりする。							
<b>授業計画</b>							
第1回	授業の概要				保育内容「言葉」とは 言葉とは何か		
第2回	領域「言葉」と保育内容				保育内容「言葉」が示すねらい内容の考え方		
第3回	乳幼児期の言葉の発達				乳幼児期の言葉の発達過程について		
第4回	言葉の発達についての理解				身体表現と言葉の発達過程と人との関わりについて		
第5回	絵本について①				絵本の選び方・絵本の教育的意義について		
第6回	絵本について②				絵本の読み聞かせ		
第7回	保育方法について				領域「言葉」についての保育方法		
第8回	言葉の指導				幼稚園教育要領・保育所保育指針に見る「言葉」		
第9回	実践上の留意点				保育の姿勢と直面する課題		
第10回	言葉を育む教材を作成①				} 自分の考えた教材の作成		
第11回	言葉を育む教材を作成②						
第12回	言葉を育む教材を作成③						
第13回	ごっこ遊びと言葉				遊びの中の役割と言葉について		
第14回	領域言葉と現代社会の課題				現代社会と言葉をめぐる問題について		
第15回	まとめ						
	<b>出版社名</b>				<b>書籍名</b>		
テキスト	みらい				保育者をめざす人の保育内容「言葉」		
参考文献	北大路書房				保育内容「言葉」		
単位認定方法	授業態度・出席状況・提出物・小テスト・定期試験						

授業計画

科目名	音楽基礎 I				担当	山川 智馨		
実務経験						授業形態	演習	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
	15				教養・ <b>必修</b> ・選択必修・幼免			
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          保育者として子どもの豊かな心を育むことができるよう、保育現場で必要とされる基礎的な音楽の知識・技術を習得する。</p> <p><b>【授業全体の内容と概要】</b>          本授業は保育・幼児教育の現場に必要なピアノの基礎技能を習得するため、個々の習熟度に沿った個人レッスンを行う。また、音楽基礎理論プリントも並行して行う。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b>          保育・幼児教育の現場での活動を展開するために必要なピアノの基礎技術を身につけ、弾き歌いができる。また、そのために必要な音楽の基礎的知識についても理解し、演奏や活動に反映することができる。</p>								
<b>授業計画</b>								
第1回	習熟度のチェックおよび次回以降の課題曲決定							
	ピアノレッスン				音楽理論			
第2回	バイエル10番台または50番台				楽譜のしくみ、音名			
第3回	バイエル20番台または50番台				小節、音符と休符			
第4回	バイエル30番台または60番台 弾き歌い1曲目 ピアノのみ				拍子とリズム(4分の4拍子)			
第5回	バイエル40番台または60番台 弾き歌い1曲目 右手と歌				拍子とリズム(4分の3拍子)			
第6回	バイエル40番台または70番台 弾き歌い1曲目 両手と歌				拍子とリズム(8分の6拍子)			
第7回	バイエル50番台または70番台 弾き歌い1曲目 仕上げ				リズム打ちテスト			
第8回	中間発表会と振り返り							
第9回	バイエル60番台または80番台前半 弾き歌い2曲目 ピアノのみ				音階と調(長音階)			
第10回	バイエル60番台または80番台前半 弾き歌い2曲目 両手と歌				音階と調(短音階)			
第11回	バイエル60番台または80番台前半 弾き歌い2曲目 仕上げ				反復記号			
第12回	バイエル70番台前半または80番台後半 弾き歌い3曲目 ピアノのみ				速度標語			
第13回	バイエル70番台前半または80番台後半 弾き歌い3曲目 両手と歌				発想標語			
第14回	バイエル70番台前半または80番台後半 弾き歌い3曲目 仕上げ				確認テスト			
第15回	実技試験							
	出版社名		書籍名					
テキスト	全音楽譜出版社		『標準バイエルピアノ教則本』					
	チャイルド社		『子どものうた100』					
単位認定方法	授業態度(日頃の練習状況と中間発表会を含む)、筆記テスト、実技試験を総合して評価します。							

授業計画

科目名	幼児体育				担当	岡崎由美子	
実務経験	幼児教育に携わった経験を活かし、実践事例を交えながら演習を行う					授業形態	演習
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
	15				教養・ <b>必修</b> ・選択必修・幼免		

【授業の目的・ねらい】

幼児期に体得すべき基礎的動作や基本的運動の理解を行うとともに保育者として必要な運動能力を高め、身体表現等に関する教材研究を行う。また、安全管理および安全教育に必要な知識を身につける。

【授業全体の内容と概要】

自身の運動能力を高めていきながら、遊びの要素を取り入れ乳幼児の運動発達を理解し、実践の中で行う保育者の支援・役割を理解する。

【授業終了時の達成課題(到達目標)】

幼児期の運動遊びの必要性を理解し安全教育に必要な知識を習得する。

授業計画

第1回	オリエンテーション、幼児体育の意義		
第2回	<div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px;"> <p>○幼児期の運動遊びとその必要性について ※スキヤモンの発育曲線～乳幼児の発達・運動を考える。</p> <p>○保育の中の運動</p> <p>・乳幼児期の運動遊び →伊波野保育園へ</p> <p>○表現遊び・創作活動 ※保育の中の体操等</p> </div>	<div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p>子どもの遊び・運動を実践的に考え、創意工夫する。</p> <p>・縄跳び、ボール、フープなどの使い方や方法、また、伝承遊びにおける運動遊び、自然とかかわる楽しさ(土、泥、砂、草花等)を実際に経験し理解する。</p> </div>	
第3回			
第4回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			試験
			出版社名
テキスト	建帛社	井上勝子「すこやかな子どもの心と体を育む運動遊び」	
参考文献			
単位認定方法	実技試験を含む。		

## 授業計画

科目名	乳児保育 I				担当	岡崎由美子	
実務経験	保育業務に携わった経験を活かし、実践事例を交えながら講義を行う					授業形態	講義
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
	15				教養 <b>必修</b> ・ 選択必修 ・ 幼免		
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 乳児保育の変遷・課題について理解をふかめるとともに、乳児保育における職員間の資質向上を図るための諸機関連携の重要性を理解する。</p> <p><b>【授業全体の内容と概要】</b> 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容を理解し、乳児保育の重要性を学ぶとともに、職員・保護者や地域の関係機関との連携について理解する。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b> 乳児保育における保育者の役割を理解し、実践に結びつける。</p>							
<b>授業計画</b>							
第1回	乳児保育の変遷						
第2回	日本の子育て環境—家庭を取りまく家庭環境と子育て支援						
第3回	乳児保育の意義、目的と役割						
第4回	～保育所保育指針～						
第5回	・乳児保育・養護に関する基本原則						
第6回	・保育所における乳児保育						
第7回	・保育所以外における乳児保育(※乳児院等)						
第8回	・3歳未満児の発達・発育を踏まえた保育内容						
第9回	(※3歳以上児の保育に移行する時期の保育への学び・理解を含む)						
第10回							
第11回							
第12回	・乳児保育の現状と課題						
第13回	・乳児保育の生活と遊び、環境						
第14回							
第15回	試 験						
	出版社名			書 籍 名			
テキスト	フォーラム・A			乳児保育			
参考文献	萌文書林 みらい			乳児の保育:改訂第3版 千羽喜代子著者 新時代の保育双書乳児保育第3版 大橋喜美子 編			
単位認定方法	授業態度・出席状況・提出物・小テスト・試験						

## 授業計画

科目名	保育実習指導 I				担当	杉本真衣子		
実務経験	保育士としての経験を活かし、具体的な事例を用いて演習を行う					授業形態	演習	
単位数	4				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
	15	15			教養 <input type="checkbox"/> 必修・ <input type="checkbox"/> 選択必修・ <input type="checkbox"/> 幼免			
<b>【授業の目的・ねらい】</b> ・実習の意義と目的を理解する。 ・保育実習を行うにあたっての事前、事後の具体的な内容を理解する。 ・実習をとおして自らの実習課題を見出すとともに、実習における心構えや知識・技能を習得する。								
<b>【授業全体の内容と概要】</b> ・実習の内容と課題を明確化する。 ・児童福祉施設における社会的機能と保育士の職務内容や役割を理解し、乳幼児の発達過程をふまえて保育士として必要な基本的保育(養護と教育)の知識、技術を習得していく。								
<b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b> ・実習をふり返り、実習を通しての学びや気づき、そして反省することや新たな課題をじっくりと考え自分なりに整理する。 ・自身が自らのよさに気づき、今後の学習課題を明らかにする。								
授業計画								
第1回	オリエンテーション				第16回	保育士の倫理観		
第2回	実習の意義・目的・内容 実習方法				第17回	実習前指導		
第3回	実習心構え				第18回	実習内容の確認 振り返り		
第4回	児童福祉施設とは				第19回	報告会		
第5回	保育所保育士の役割と専門性理解				第20回	報告会		
第6回	実習施設の理解 観察・体験実習準備				第21回	児童福祉施設(保育所を除く)の 保育士の役割と専門性理解		
第7回	保育所の状況や一日の流れの理解				第22回	事前学習 実習課題の明確化		
第8回	乳幼児の発達理解				第23回			
第9回	【観察・体験実習】				第24回	記録について		
第10回	【観察・体験実習】				第25回	実習に関する手続きについての把握		
第11回	振り返り				第26回	実習前指導		
第12回	実習課題の明確化				第27回	実習内容の確認 振り返り		
第13回	実習記録の意義・方法 保育計画・指導計画の理解				第28回	報告会		
第14回	児童福祉施設(保育所を除く)の 意義・目的・施設種別・内容理解				第29回	報告会		
第15回	実習に関する手続きについての把握				第30回	まとめ 今後の課題への取り組み		
						書籍名		
テキスト	中央法規 萌文書林		保育実習 保育者になるための国語表現					
参考文献	厚生労働省		保育所保育指針解説					
成績評価の方法	授業態度・出席状況・提出物・事前事後学習・小テストなどをもとに総合的に評価する							



授業計画

科目名	幼児教育方法論				担当	久保田智子	
実務経験						授業形態	講義
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
	15				教養・必修・ <b>選択必修</b> ・幼免		
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          幼児期における保育方法の基本について学習し、「環境を通じた教育」の意義や意味、幼児期の遊びの中の学びや幼児期にふさわしい生活について理解する。</p> <p><b>【授業全体の内容と概要】</b>          幼児期における教育方法の基本について、実際に遊ぶ体験を取り入れながら、その意義や意味を理解して学ぶ。その上で、幼児の主体性を育み、ともに生活を作っていく保育者について、事例検討を通して理解を深める。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期の発達について、特徴や捉え方を理解する。</li> <li>・「生きる力」の基礎を培う、保育方法の基本について理解する。</li> <li>・子どもの主体的な生活をともに作っていく保育者の役割について理解する。</li> </ul>							
<b>授業計画</b>							
第1回	保育の基本的理念、保育方法の原理について						
第2回	「環境を通しての教育」について①体験						
第3回	「環境を通しての教育」について②講義						
第4回	保育内容「5領域」について						
第5回	学びを育む遊びについて①体験						
第6回	学びを育む遊びについて②講義						
第7回	幼児の主体性を育む保育について						
第8回	保育者の役割						
第9回	保育におけるカウンセリングマインド						
第10回	保育の方法としての保育形態について						
第11回	保育における計画と評価の意義						
第12回	小学校との連携について						
第13回	家庭との連携について						
第14回	地域との連携について						
第15回	試験						
	出版社名		書籍名				
テキスト	北大路書房		保育の内容・方法を知る 幼児教育の方法				
参考文献	フレーベル館		保育所保育指針解説書 幼稚園教育要領解説書 幼保連携型認定こども園教育保育要領				
単位認定方法	授業態度・出席状況・試験・提出物等						

## 授業計画

科目名	子どもと自然				担当	佐々木明美		
実務経験	幼児教育に携わった経験を活かし、実践事例を交えながら演習を行う					授業形態	演習	
単位数	4				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
	15		15		教養・必修・ <u>選択必修</u> ・幼免			
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b></p> <p>「人間は生き物であり、自然の一部である」というあたりまえのことを基本に「どう生きるか」を考えてみる。</p> <p>自然という生き物を取り巻く環境が生き物に及ぼす影響や育つ条件をしり、さらに、生き物と自然のかかわりを探求する。</p> <p>生き物を育て育成する実践活動を通して、生き物への興味・関心を深める。</p> <p><b>【授業全体の内容と概要】</b></p> <p>生き物に関する基礎的知識と動植物の飼育・栽培方法について学習する。生き物の飼育や栽培などの実践的活動をとおして生きること育てることの大切さを知り、命の重みに気づく。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生き物と自然の関係や育成環境について理解する。</li> <li>・生物の育成条件と自然とのかかわりを理解し、適切な栽培・飼育の技術、管理方法を習得する。</li> <li>・保育現場での生き物とかかわる保育についての指導のありかたについて理解を深める。</li> </ul>								
<b>授業計画</b>								
<p>第1回 生き物の多様性と自然のとらえ方、生息環境</p> <p>第2回 生き物と自然の構成と人間とのかかわりについて</p> <p>第3回 自分の育てたい植物栽培の技術と育成環境の管理</p> <p>第4回 栽培の実践活動(1)</p> <p>第5回 栽培の実践活動(2)</p> <p>第6回 栽培の実践活動(3)</p> <p>第7回 生物の野外観察・採集</p> <p>第8回 野外観察・採集した生物の食性や習性に関する調査</p> <p>第9回 野外観察・採集した生物の食性や習性に関する発表</p> <p>第10回 近年の子どもの育ちと自然及び環境について</p> <p>第11回 子どもの育ちに与える生き物の影響と関わり方</p> <p>第12回 保育現場における動物飼育の活動例から学ぶ(1)</p> <p>第13回 保育現場における動物飼育の活動例から学ぶ(2)</p> <p>第14回 保育現場での生き物及び自然環境の問題点と留意</p> <p>第15回 試験</p>								
テキスト	なし							
参考文献								
単位認定方法	授業態度・出席状況・提出物・定期試験							

# 授業計画

科目名	体育実技				担当	石田和也	
実務経験						授業形態	実技
単位数	1				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
		15			教養・ <b>必修</b> ・選択必修・幼免		
<b>【授業の目的・ねらい】</b>							
1. スポーツ実践(球技)を通し、健康や体力の向上に努めるとともに豊かなライフワークを身につけさせる。							
2. 安全に留意しながら、ルールを遵守し、責任感や協調性、幼児体育の実践力を身につけさせる。							
<b>【授業全体の内容と概要】</b>							
1. 球技種目のゲームを中心とした授業展開の実施。							
2. 各種目のルールや審判法の理解と実践。							
3. 各種目の攻防の展開の理解と実践。							
4. 体ほぐしや体力づくりの準備運動。(できるだけ短時間で毎回)							
<b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b>							
1. 学生の運動経験、能力、興味、関心等を踏まえ、卒業後も好きなスポーツを継続的にできるようにする。							
2. 健康や体力の維持向上を目指し、自らその実践に努め、地域等の実社会で活かせるようにする。							
3. 球技を中心に授業を行い、安全に留意し、ルールを遵守しフェアプレイの精神を身につけさせる。							
4. 体ほぐしなど幼児体育に関する内容を導入し、実践の場での応用力を身につけさせる。							
<b>授業計画</b>							
第1回	ソフトバレーボールに慣れパス、トス、アタックができるように学習する。						
第2回	ソフトバレーボールの状況に応じたボール操作や安定した連係や動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開する方法を学ぶ。						
第3回	今まで学習して身につけた技術や戦術を使って楽しくソフトバレーボールのゲームができるようにするとともにルールや審判法を実践で生かす。						
第4回	今まで学習して身につけた技術や戦術を使って楽しくソフトバレーボールのゲームができるようにするとともにルールや審判法を実践で生かす。						
第5回	バドミントンのラケットの握り方、シャトルに慣れ、自分の思い通りにシャトルが打てるようにする。						
第6回	バドミントンの役割に応じたシャトルの操作や安定したラケット操作よって攻防を展開する方法を学ぶ。						
第7回	今まで学習して身につけた技術や戦術を使って楽しくバドミントンのゲームができるようにするとともにルールや審判法を実践で生かす。						
第8回	今まで学習して身につけた技術や戦術を使って楽しくバドミントンのゲームができるようにするとともにルールや審判法を実践で生かす。						
第9回	卓球のラケットの握り方、ピン球に慣れ、自分の思い通りにピン球が打てるようにする。						
第10回	卓球の役割に応じたピン球の操作や安定したラケット操作よって攻防を展開する方法を学ぶ。						
第11回	今まで学習して身につけた技術や戦術を使って楽しく卓球のゲームができるようにするとともにルールや審判法を実践で生かす。						
第12回	今まで学習して身につけた技術や戦術を使って楽しく卓球のゲームができるようにするとともにルールや審判法を実践で生かす。						
第13回	バスケットボールの安定したボール操作と空間作りだし、連係した動きでゴール前の侵入などからの攻防を展開する技能を学ぶ。						
第14回	バスケットボールの状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動き、連係プレー、ルール、審判法について学ぶ。						
第15回	今まで学習して身につけた技術や戦術を使って楽しくバスケットボールのゲームができるようにするとともにルールや審判法を実践で生かす。						
テキスト	南江堂	テキスト健康科学					
参考文献	大修館出版	アクティブスポーツ					
	チャイルド社	幼児の運動あそび					
	西東社	スポーツトレーニングの基礎理論					
単位認定方法	授業態度 ・ 出席状況 ・ 提出物						

授業計画

科目名	国語(書写を含む)				担当	山岡 雄一郎		
実務経験						授業形態	演習	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
		15			○ 教養 ・ 必修 ・ 選択必修 ・ 幼免			
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          国語に対する基礎的・基本的知識理解を確実にするとともに、国語教育及び言語生活について考える力を育てる。</p> <p><b>【授業全体の内容と概要】</b>          日本語の特徴を表記、音声、語彙、文法などの面から理解を深めるとともに、今日の国語問題や言語環境について考える。また、硬筆を中心とした書写の実践も行う。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b>          国語に対する基本的・基本的な知識を身につけるとともに、言語生活を広い視野から考えようとする態度を養う。</p>								
<b>授業計画</b>								
第1回	日本語の特色(1)							
第2回	日本語の特色(2)							
第3回	日本語の音声の特徴(1)							
第4回	日本語の音声の特徴(2)							
第5回	日本語の語彙について(1)							
第6回	日本語の語彙について(2)							
第7回	日本語の文字及び表記法について							
第8回	日本語の文法について(1)							
第9回	日本語の文法について(2)							
第10回	日本語の文法について(3)							
第11回	日本語の文法について(4)							
第12回	日本語の方言について							
第13回	日本語の敬語について							
第14回	国語をとりまく現代の言語環境について							
第15回	試験							
	<b>出版社名</b>				<b>書籍名</b>			
テキスト	岩波新書				金田一春彦著『日本語 新版 上下』			
参考文献	萌文書林				保育者になるための国語表現			
単位認定方法	授業態度・出席状況・試験							

# 授業計画

科目名	就職支援				担当	佐々木明美	
実務経験						授業形態	演習
単位数	4				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
	7	8	7	8	教養・必修・選択必修・幼免		
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 進路を意識し履修意欲を高め、社会人としての知識技能を身につけるとともに、これからどう生きていくのかを考える。							
<b>【授業全体の内容と概要】</b> 就職を念頭に置き、コミュニケーション演習・就職対策指導を2年間通じて継続的に学習する。 各回の内容を習得しながら身につけていき、社会人としての高い人間性を目指す。							
<b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b> 「保育士として」「社会人として」のルールを学びながら進路意識、目的意識を明確にする。							
<b>授業計画</b>							
第1回	就職支援学習について				第16回	就職の流れについて	
第2回	就職先と保育所実習について				第17回	自己分析	
第3回	保育所実習先について				第18回	ジョブカードの作成	
第4回	実習依頼の方法・園(所)訪問の方法				第19回	ジョブカードの修正	
第5回	自分の目指す保育士について				第20回	目指す保育者像について	
第6回	ジョブカード作成				第21回	ボランティア活動と就職計画	
第7回	就職活動の流れ				第22回	自己PRについて	
第8回	求人の動向や就職試験の傾向				第23回	実際の仕事について	
第9回	履歴書の書き方				第24回	過去問題に挑戦(小論文)	
第10回	実際の仕事について				第25回	過去問題に挑戦(専門試験)	
第11回	就職につながる実習のありがた(保育所)				第26回	履歴書作成について	
第12回	保育所に関する調べ学習				第27回	模擬個別面談	
第13回	グループ発表				第28回	模擬グループ面談	
第14回	自己理解と自己PRについて				第29回	模擬面談	
第15回	就職につながる実習のありがた(施設)				第30回	まとめ 進路希望調査	
テキスト	なし						
参考文献							
単位認定方法	出席日数・提出物等						

**授業計画**

科目名	教育原理				担当	久保田智子	
実務経験						授業形態	講義
単位数	2単位				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
		15			教養・ <b>必修</b> ・選択必修・幼免		
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 生涯にわたる発達を見通して、教育の基本原則を理解する。</p> <p><b>【授業全体の内容と概要】</b> 教育の意義や目的、歴史、法律や制度、様々教育実践や思想等について学ぶ。また、それらと現代の社会的状況を踏まえて、今日の教育における課題について考える。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の意義や目的、子ども家庭福祉との関わりについて理解する。</li> <li>・教育に関する歴史や思想、制度等基礎的な理論について理解する。</li> <li>・様々な教育実践について理解する。</li> <li>・乳幼児期の教育の特性について理解する。</li> </ul>							
<b>授業計画</b>							
第1回	オリエンテーション 教育の基本原則①						
第2回	教育の基本原則②						
第3回	西洋の教育の制度と思想の歴史①						
第4回	西洋の教育の制度と思想の歴史②						
第5回	日本の教育の制度と思想の歴史①						
第6回	日本の教育の制度と思想の歴史②						
第7回	発達と教育						
第8回	幼児期の発達に即した教育とは						
第9回	家庭・地域教育						
第10回	教育の制度・法律						
第11回	学習指導要領の要点						
第12回	教育と子ども家庭福祉の関連						
第13回	教育における今日的課題						
第14回	教育における今日的課題						
第15回	試験						
	出版社名			書籍名			
テキスト	広岡義之			新しい教育原理			
参考文献							
単位認定方法	授業態度・出席状況・試験等						

授業計画

科目名	社会的養護 I				担当	持田 陽子	
実務経験						授業形態	講義
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
		15			教養・ <b>必修</b> ・選択必修・幼免		
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する          子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する          社会的養護の制度や実施体系について理解する          社会的養護の対象や形態、関係する専門職について理解する</p> <p><b>【授業全体の内容と概要】</b>          子どもの最善の利益を追求する為に必要な社会的養護について学ぶ</p> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b>          社会的養護の現状と課題について理解する</p>							
<b>授業計画</b>							
第1回	社会的養護の理念と概念						
第2回	社会的養護の基本原則						
第3回	社会的養護の歴史的変遷						
第4回	社会的養護のしくみと実施体系						
第5回	社会的養護の制度と法体系						
第6回	社会的養護の対象と支援のあり方						
第7回	社会的養護における保育士等の倫理と責務						
第8回	社会的養護に関する社会的状況						
第9回	家庭養護と施設養護①						
第10回	家庭養護と施設養護②						
第11回	社会的養護に関わる専門職						
第12回	被虐待児童等の虐待防止の現状と課題						
第13回	社会的養護と地域福祉の現状と課題						
第14回	まとめ						
第15回	試験						
	出版社名			書籍名			
テキスト							
参考文献	適宜授業にて資料配布						
単位認定方法	授業態度・出席状況・提出物・定期試験						

## 授業計画

科目名	保育者論				担当	岡崎由美子					
実務経験	幼稚園教諭として幼児教育に携わった経験を活かし、保育者について実践事例を取り上げながら講義を行う				授業形態	講義					
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス				
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科				
					教養 (必修) 選択必修・幼免						
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>            保育者の意義及び役割、職務内容などに関する知識・理解を深め、保育者に対する自らの適性を考察するとともに、自分を振り返りながら保育者への意欲や自覚を養う。</p> <p><b>【授業全体の内容と概要】</b>            保育者の役割、保育者に求められる専門性の拡大、専門性の向上、職業倫理など、保育者という存在に様々な角度からの検討を加え、実践事例を取り上げながら学びを深める。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b>            「保育とは」、子どもが「育つ」とはなど、保育に求められる保育者の専門性について理解を深め、専門性の向上を図る。</p>											
<b>授業計画</b>											
第1回	オリエンテーション										
第2回	保育のもつ意味・保育をするということ										
第3回											
第4回	保育者に求められる専門性										
第5回	↓ 子どもたちのかかわりを通して保育理解 ↓ 保育の中で子どもたちと共に ※子どもを読み解く				・豊かな文化や自然との出会い						
第6回					・地域における子育て支援						
第7回					・保育者の成長と「省察」						
第8回					・保育観、子ども観						
第9回											
第10回					保育者の役割				・保育者の職務と倫理		
第11回											
第12回					保育の変遷と歴史・人物						
第13回									・社会のニーズ、保育制度の動向		
第14回	期待される保育者										
第15回	試 験										
	<b>出版社名</b>				<b>書 籍 名</b>						
テキスト	建帛社				民秋言編「保育者論」						
参考文献	全国社会福祉協議会				改訂1版新 保育士養成講座 第12巻 保育者論						
	チャイルド				「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育保育要領」						
成績評価の方法	試験、出席状況、提出物等										



授業計画

科目名	保育の心理学				担当	久保田智子	
実務経験						授業形態	講義
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
		15			教養・ <b>必修</b> ・選択必修・幼免		
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの発達に関する心理学の基礎的知識を習得し、子どもの発達を捉える視点を身につける。</li> </ul> <p><b>【授業全体の内容と概要】</b></p> <p>保育実践に関わる心理学の基礎的な知識を学び、子どもの発達に即した援助や人との相互的関わり、具体的体験、環境の重要性について考えを深める。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの発達について心理学の基礎的な知識を習得し、子どもへの理解を深める。</li> <li>子どもの学びの過程や特性について理解し、発達に即した援助を考えることができる。</li> <li>保育における人との相互的関わりや環境の意義について理解する。</li> </ul>							
<b>授業計画</b>							
第1回	心理学・発達とは何か						
第2回	子どもの発達と環境						
第3回	発達理論について①						
第4回	発達理論について②						
第5回	胎児期・新生児期の発達						
第6回	社会情動的発達						
第7回	身体機能と運動機能の発達						
第8回	認知の発達						
第9回	言葉の発達						
第10回	気質・性格の発達						
第11回	学習に関する理論						
第12回	乳幼児期における学習の特性						
第13回	乳幼児期の学びを支える保育						
第14回	子どもの発達における今日的課題について						
第15回	試験						
	出版社名			書籍名			
テキスト	建帛社			シードブック保育の心理学Ⅰ・Ⅱ			
参考文献							
単位認定方法							

授業計画

科目名	子どもの食と栄養				担当		
実務経験						授業形態	演習
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
		15			教養・必修・選択必修・幼免		
<p>【授業の目的・ねらい】  食習慣の基礎を形成する重要なライフステージにある小児期の健全な食生活について様々な角度から考え、理解する</p> <p>【授業全体の内容と概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養の基本的知識に関する内容を習得する</li> <li>・子どもの心身の健康と食生活を学び、発達(食育)過程を理解する</li> <li>・実習を通じて講義の内容に対する理解を深め、子どもの食育への支援ができる力を養う</li> <li>・ガイドラインを通して特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する</li> </ul> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】  小児期における食生活の経験は生涯の健康に深く関わることを認識し、栄養の基本的知識を習得すると共に、子どもの発育・発達と食生活の関連性及び食育の基本とその環境のあり方について理解する</p>							
授業計画							
第1回	小児の栄養と食生活の意義		小児の発育・発達と栄養		【講義/202教室】		
第2回	栄養に関する基礎知識		栄養素の消化・吸収・代謝(五大栄養)		【講義/202教室】		
第3回	”		バランスの良い食事づくり		【調実/調理室】		
第4回	”		栄養素の種類(分類)と機能		【演習/調理室】		
第5回	乳児期の食生活		乳汁栄養について		【講義/202教室】		
第6回	”		離乳食について		【講義/202教室】		
第7回	”		離乳食づくり・市販品との比較		【調実/調理室】		
第8回	”				【調実/調理室】		
第9回	幼児期の食生活		幼児期の食事・間食		【講義/202教室】		
第10回	”		幼児期のおやつづくり		【調実/調理室】		
第11回	”				【調実/調理室】		
第12回	学齢期・思春期の食生活				【講義/202教室】		
第13回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養				【講義/202教室】		
第14回	食育のねらいと内容		まとめ		【講義/202教室】		
第15回	試験				【講義/202教室】		
	出版社名		書籍名				
テキスト	ななみ書房		子どもの食生活－栄養・食育・保育－(第3版)				
参考文献							
成績評価の方法	授業態度・出席状況・提出物						

## 授業計画

科目名	保育の計画と評価				担当	岡崎由美子		
実務経験	幼稚園教諭として幼児教育に携わった経験を活かし、実践事例を交えながら講義を行う					授業形態	講義	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
		15			教養 ( 必修 ・ 選択必修 ・ 幼免			
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 子どもの発達を踏まえ、保育の全体的計画を理解する。</p> <p><b>【授業全体の内容と概要】</b> 子どもの発達と遊びからその時期に必要なとする支援・援助、経験と学びの重要性を考える。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b> 実践の振り返りを行う重要性と全体的計画に生かし、実践の中で生かしていく力を培う。</p>								
<b>授業計画</b>								
第1回	オリエンテーション							
第2回	保育の基本と計画の考え方							
第3回	幼児期に育みたい資質・能力							
第4回	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領							
第5回	保育の中に見る子どもの姿、個と集団の理解							
第6回	↓							
第7回	保育所における全体的な計画							
第8回	長期の指導計画と短期の指導計画							
第9回	幼児理解に基づいた評価と振り返り・事例から考える							
第10回	↓							
第11回	↓							
第12回	保育における計画の変遷							
第13回								
第14回	諸外国の乳幼児期の教育・保育							
第15回	試 験							
	出版社名	書籍名						
テキスト	光生館	乳幼児教育・保育シリーズ 教育課程論						
参考文献	中央法規	「教育・保育カリキュラム論」「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型こども園教育・保育要領」						
	チャイルド本社	「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」						
成績評価の方法	授業出席状況・態度、提出物、試験							

## 授業計画

科目名	保育内容総論				担当	佐々木明美	
実務経験	幼稚園教員として幼児教育に携わった経験を活かし、子どもの育ちを支える保育者について実践例を紹介しながら演習を行う				授業形態	演習	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
			15			教養・ <b>必修</b> ・選択必修・幼免	
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 子どもの育ちを支えている保育者を目指し、理論と実践事例を通して学ぶ							
<b>【授業全体の内容と概要】</b> テキストを用いて保育内容への理解を深める。 具体的な保育実践例を紹介する。 子どもの育ちを支える保育内容を考え合う。そこで必要な幼児理解について考え合う。 保育内容を豊かにする教材を共同で研究し、発表する。							
<b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b> 保育内容各論を基盤に保育所保育指針・幼稚園教育要領の「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」「保育の内容」を関連付けて保育内容を理解するとともに、子どもの育ちを支える保育を総論として学ぶ。そして、子どもの幸せを願い、様々な課題に対処できる保育者として求められる資質を養う。保育者としての実践力を養う。							
授業計画							
第1回	保育所保育指針の保育内容とは				保育内容のとらえ方と「領域」		
第2回	保育の特質				「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園養育保育要領」について		
第3回	保育内容の変遷				保育・子どものとらえ方の歴史的変遷		
第4回	幼児の発達と生活				年齢ごとの発達と保育内容		
第5回	幼児理解				子どもを見る目・発達の課題・一人一人の特性に応じた教育		
第6回	「環境」と保育				環境を通して行う保育・なぜ環境なのか・環境と遊び		
第7回	遊びと学び				子どもにとっての遊び、遊びを通しての総合的な指導		
第8回	保育の計画と展開				保育の計画の考え方、環境の構成をすることについて		
第9回	保育と教材 1				保育内容を豊かにするもの、具体的な演習		
第10回	評価と記録				評価および記録の意味		
第11回	保育者の役割				保育者の使命と役割と実践例の紹介(家庭、地域、学校、文化)		
第12回	保育と教材 2				共同研究発表①		
第13回	保育と教材 3				共同研究発表②		
第14回	保育の課題				保育現場の状況と課題、今後大切なこととまとめ		
第15回	まとめ						
	出版社名		書 籍 名				
テキスト	大学図書出版		実践理解のための保育内容総論				
参考文献	フレーバル館		「保育所保育指針解説書」「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園養育保育要領」				
成績評価の方法	授業態度・出席状況・提出物・小テスト・定期試験						

授業計画

科目名	造形表現 I				担当	廣江 潮美		
実務経験						授業形態	演習	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
		15			教養・ <u>必修</u> ・選択必修・幼免			
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          幼児の造形教育において必要な基本的な知識、技術を体験的に理解、習得する。</p> <p><b>【授業全体の内容と概要】</b>          1. 授業は、「演習」の形式ですすめる。          2. 材料経験、造形表現体験が中心となるため、授業前後における材料、用具の準備、片付け、服装等の用意が必要となる。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b>          1. 幼児の造形表現を豊かにするために、多様な材料体験を通して造形活動の知識や技術を理解、習得する。          2. 保育の内容「表現」を理解し、造形の基礎的な知識、技術を理解、習得する。          3. 作品や画像・製作の資料・感想等を各自スケッチブックにまとめ、振り返りや次の製作への参考とする。</p>								
<b>授業計画</b>								
第1回	【オリエンテーション】実技研修の意義と構え、幼児の造形表現活動について							
第2回	【美術基礎】『事例：用途デザインA』(p.169) レタリング ー永字八法 明朝体・ゴシック体ー							
第3回	【材料経験】①『事例a～c』(pp.18-20)〈平面〉 テキスト等を参考にし、興味あることに取り組む。 「にじみ」「ドリップング」「マースキング」							
第4回	【材料経験】②『事例d～f』(pp.21-23)〈平面〉 テキスト等を参考にし、興味あることに取り組む。 「ローリング」「デカルコマニー」「スタンピング」							
第5回	【材料経験】③『事例g～i』(pp.24-26)〈平面〉 テキスト等を参考にし、興味あることに取り組む。 「フィンガーペインティング」「スクラッチ」「ウォッシング」							
第6回	【材料経験】④『事例j～l』(pp.27-29)〈平面〉 テキスト等を参考にし、興味あることに取り組む。 「マーブリング」「フロッタージュ」「コラージュ」							
第7回	【材料経験】⑤『事例m』(p.30)〈立体〉 テキスト等を参考にし、興味あることに取り組む。 「ユニット」							
第8回	【材料経験】⑥『事例n～q』(pp.31-34)〈立体〉 テキスト等を参考にし、興味あることに取り組む。 「アルミホイール」「ねんど」							
第9回	【造形遊び】①『事例a～k』(pp.39-50)〈材料へのかかわり〉 テキスト等を参考にし、興味あることに取り組む。 「自然物を使ってつくりよう」「色水遊び」							
第10回	【か く】①『事例a～l』(pp.53-64)〈凹凸版画〉 主として平面的表現 「コラグラフ版画をつくりよう」							
第11回	【か く】②『事例a～l』(pp.53-64)〈凹凸版画〉 主として平面的表現 「コラグラフ版画をつくりよう」							
第12回	【つ くる】①『事例a～g』(pp.66-82)〈仕組みの工夫〉 主として立体的表現 「積む・並べる・たてる・つなぐの遊びを考えよう」ー身近な素材を使ってー							
第13回	【総合活動】①『事例a～k』(pp.84-106)について興味あることに取り組む。 実践例「ペープサートをつくりよう」ーいろいろな材料・技法を活かしてー							
第14回	【総合活動】②『事例a～k』(pp.84-106)について興味あることに取り組む。 実践例「ペープサートをつくりよう」ーいろいろな材料・技法を活かしてー							
第15回	【ま と め】作品発表・鑑賞、まとめ ー幼児造形教育の果たす役割についてー							
	出版社名		書籍名					
テキスト	三晃書房		『新造形表現 ー実技編ー』					
参考文献	日本文教出版		『美術 ー表現と技法ー』					
成績評価の方法	授業態度・出席状況・提出物(作品、感想等を記録・整理したスケッチブック)							

**授業計画**

科目名	リズム表現 I				担当	岡崎由美子	
実務経験						授業形態	演習
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
					教養・ <b>必修</b> ・選択必修・幼免		

**【授業の目的・ねらい】**

子どもの音楽に必要な演奏技術を身に付けるとともに表現活動を体験し、保育実践へとつなげていく。

**【授業全体の内容と概要】**

保育現場で扱う曲や歌唱、楽器を使ったアンサンブルを行うための指導方法を考えたり身近な素材を活かして活動を考えたりしながら演奏する楽しさを感じる。

**【授業終了時の達成課題(到達目標)】**

音楽的知識を理解したうえで、適切な楽器の選択や伴奏、指導方法を理解し、それを実践的に展開し発表する。

**授業計画**

第1回	オリエンテーション	
第2回	○保育の中の音楽表現とは	
第3回	子どもの遊びと音楽	
第4回	○子どもの音楽表現を共有していくための基礎 ・ソルフェージュ  ・子どもの歌と伴奏を楽しむ	♪ブルグミュラー：「アラベスク」、「バラード」の何れか選択し演奏。
第5回		♪子どもの歌に自分で考えた伴奏(左手)を付け、演奏。
第6回		
第7回		→調べ学習、グループ練習を含む
第8回		→グループで台本やスコアを作成・表現する。
第9回		→ロールプレイング
第10回		
第11回		○いろいろな楽器や音を楽しむ。
第12回		
第13回		
第14回		
第15回	試験(アンサンブル)	

	出版社名	書籍名	
テキスト	特になし		
参考文献	教育芸術社	おんがくのしくみ歌って動いてつくってわかる音楽理論	
	全音楽出版社:ダルクローズによるリトミック指導1、2、3		
単位認定方法	授業態度、提出物、実技等		

**授業計画**

科目名	乳児保育Ⅱ				担当	岡崎由美子								
実務経験	保育業務に携わった経験を活かし、実践事例を交えながら演習を行う					授業形態	演習							
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス							
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科							
		15			教養・ <b>必修</b> ・選択必修・幼免									
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 乳児保育における養護と教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊び、保育の方法や環境について体験授業や映像を通して可視化・理解する。</p> <p><b>【授業全体の内容と概要】</b> 実際の保育生活を過ごす乳児期の特性を踏まえたかかわりや援助の基本的な考え方を具体的に理解し、乳児保育における計画作成について理解する。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b> 乳児保育における発達・環境をしっかりと考え、実践に生かしていくことを具体的に理解する。</p>														
<b>授業計画</b>														
第1回	乳児保育の基本													
第2回	乳児期における個と集団の育ちと応答的かかわり・援助													
第3回														
第4回														
第5回	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児期の子ども(1日)の生活</li> <li>・生活と遊びを支える環境構成</li> <li>・乳児期の発育・発達を踏まえた保育者の援助と実際</li> <li>・子ども同士の関わりとその援助の実際</li> <li>・集団生活における配慮</li> <li>・環境の変化や移行に対する配慮の実際</li> <li>・乳児保育における計画の実際</li> </ul> </div>													
第6回														
第7回														
第8回														
第9回														
第10回														
第11回														
第12回														
第13回														
第14回														
第15回								試験						
								※沐浴、授乳の実際を体験						
								※実際の保育場面や映像を通して考え、話し合いを行い可視化。						
								出版社名	書籍名					
テキスト	フォーラム・A	乳児保育												
参考文献	萌文書林	乳児の保育 : 新訂第3版 千羽喜代子著者												
単位認定方法	出席状況・態度、提出物、試験													

授業計画

科目名	音楽基礎Ⅱ				担当	山川 智馨	
実務経験						授業形態	演習
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
		15			教養・ <b>必修</b> ・選択必修・幼免		
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          保育者として子どもの豊かな心を育むことができるよう、保育現場で必要とされる音楽の知識や演奏技能を習得する。</p> <p><b>【授業全体の内容と概要】</b>          本授業は「音楽基礎Ⅰ」で習得した基礎技能に加え、保育・幼児教育の現場に必要なピアノの技能のさらなる向上を目指し、個々の習熟度に沿った個人レッスンを行う。また、音楽基礎理論プリントも並行して行う。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b>          保育・幼児教育の現場での活動を展開するために必要な演奏技術を身につけ、弾き歌いのレパートリーが増える。また、そのために必要な音楽の知識についてもさらなる理解を深め、演奏や活動に反映することができる。</p>							
<b>授業計画</b>							
第1回	バイエル70番台後半または90番台前半 弾き歌い1曲目 ピアノのみ				音程(完全、長短)		
第2回	バイエル70番台後半または90番台前半 弾き歌い1曲目 両手と歌				音程(増減)		
第3回	バイエル70番台後半または90番台前半 弾き歌い1曲目 仕上げ				コードネーム(主要三和音)		
第4回	バイエル80番台前半または90番台後半 弾き歌い2曲目 ピアノのみ				コードネーム(コードの種類)		
第5回	バイエル80番台前半または90番台後半 弾き歌い2曲目 両手と歌				コードネーム(簡単なコード伴奏の実践)		
第6回	バイエル80番台前半または90番台後半 弾き歌い2曲目 仕上げ				子どものうたの歴史(わらべうた、明治～大正)		
第7回					子どものうたの歴史(昭和～平成)		
第8回	中間発表と振り返り						
第9回	バイエル80番台後半または100番台 弾き歌い3曲目 ピアノのみ				学生の伴奏による歌唱(第14回まで)		
第10回	バイエル80番台後半または100番台 弾き歌い3曲目 両手と歌						
第11回	バイエル80番台後半または100番台 弾き歌い3曲目 仕上げ						
第12回	バイエル90番台前半またはブルグミュラー程度のピアノ曲 弾き歌い4曲目 ピアノのみ						
第13回	バイエル90番台前半またはブルグミュラー程度のピアノ曲 弾き歌い4曲目 両手と歌						
第14回	バイエル90番台前半またはブルグミュラー程度のピアノ曲 弾き歌い4曲目 仕上げ						
第15回	実技試験						
	出版社名		書籍名				
テキスト	全音楽譜出版社 チャイルド社		『標準バイエルピアノ教則本』 『子どものうた100』				
参考文献	全音楽譜出版社		『ブルグミュラー 25の練習曲』等、個人の習熟度に合わせて様々な曲を薦める。				
単位認定方法	授業態度(日頃の練習状況と中間発表会を含む)、筆記テスト、実技試験を総合して評価します。						